

.....

**母親が精神的に不安定になると  
子どもが自閉症のような行動をする事があります**

楡の会こどもクリニック  
石川 丹

.....

自閉症と言われる子どもの行動特徴は自閉症ではない子どもでも現わす事があります<sup>1)</sup>。

本稿では母親が「家の子は自閉症ではないか？」と心配して受診して来ましたが、母親の精神的落ち込みが原因で子どもに自閉症症状が出ていた事が判明し、母親が子どもへの態度を変えて心理療法的関わりをする努力をした結果、自閉症の心配が無くなった子について述べます。

3歳8ヵ月の男児のお母さんが「ミニカーや車、アニメにこだわりが強い。しつこい、気分の切り換えが悪すぎる。癩癩が強い。神経質で髪の毛や濡れたお風呂の床を嫌がる。だから自閉症だと思う」と心配して見えました。

児は出産時も乳児期も問題はなく、1歳過ぎからはお気に入りのミニカーを持って寝るように成り、1歳半健診の時に癩癩と頭打ちのために保健センターで発達検査を受けたが問題無いと言われました。

母の職業は病院ソーシャルワーカーで、父は介護福祉のケアマネージャー、11ヵ月の弟が一人です。

**母親の心配の様子**

父が残業で遅い時にこの子に「今日は父さん帰りが遅いんだよ」と言うと、「父さんは？」「父さんは？」と思い出しては何回も繰り返し、5~6回やられると苛苛して口も利きたくなくなる。母が怒ると怒ったことがスポンと抜けて直ぐ忘れてしまうのでまた怒る。家の中で走るのを怒るが直ぐ走るのをまた怒る。怒ると物を投げるのでまた怒る。マックィーンというアニメに出て来る赤い車が大好きで、赤い車を見れば直ぐマックィーンと言う。母自身も凝り性だがこの子ほど熱中しない。同年齢の子と遊ばないし、つま先歩きがあるので、この子は自閉症の子かなと思っている、との事でした。

**自閉症かどうかの判断**

母親の心配を吟味するために自閉症の子の行動特徴の一つであるいわゆるこだわり、つまり生活上の行動でこの子流の決め事ややらなきゃ気が済まない事があるかどうかを質すと無いとの事でした。

自閉症の子はしないと言われるごっこ遊びの様子を質すと、アニメのキャラクターに成って遊ぶ、つまり成り切り遊びをしているとの事でしたので、ごっこ遊びもちゃんと発達している事が判明しました。

言葉の発達の心配は認めませんでした。

本児の自閉症の様な振る舞いは自閉症の三つの診断基準に合致するほど多くはなかったので自閉症の診断はしませんでした。

### 母親の子どもへの心理療法的関わり方の提案

この子は我が強い子、俺流が強いつまりマイペースな子ですから、自分のやりたい事を制止されてもやりたがる子です。「止めろって言われたってやりたいんだ」という思いが強いのでお母さんの言う事をなかなか聞けない子です。ですからお母さんが強く怒るけどやっぱりいう事を聞かないので堂々巡りになってしまうのです。

お母さんの心配を少なくするためには、まずはこの子流のやり方を一度認めてから修正を図るやり方の方が大事です。何故かと言うと、お母さんも職業柄御存じのはずの心理療法で一番大事な概念である“受容”をこの子に知らせる事が第一だからです。

お母さんは直ぐに怒らないで、怒る前にお母さんがこの子の気持ちを代弁して言うてから怒って下さい。

例えば、家の中で走り始めたら「走りたいんだ、歩いて」と言って下さい。物を投げたら「投げたかったんだ」と言うてから叱って下さい。

こういう風にこの気持ちを言うてから叱ると、子どもの心の中に一瞬「お母さんは僕の気持ちが分かってるんだ」という思いが生じます。この気持ちが“受容されてるんだ”感なのです、

子どもの気持ちを言い当てて言う事を心理療法では“凶星を言う”と言います。凶星を言う事によって「お母さんは僕のこと分かってくれているんだ」という気持ち、つまり安心感信頼感が子どもの心に湧き上がります。この安心感信頼感が子どもの素直さを作るのです。

上記の説明をした後、母親は「自分がダメが多いのは自覚していたので“凶星を言う”をやってみます」「直ぐダメを言わないようにして、この子の気持ちを言うてから怒るようにしてみます」とおっしゃいました。

## 2 週後の診察時のお話

母が「ダメ」「止めて」を言わないように意識したところ、父親が「君が『ダメ』を言わなくなったのをこの子は分かってるよね」と言ってくれたとの事でしたので、大いに母を褒めました。

この子の気持ちを代弁するようにしているけど、凶星を言うのは難しく、当てずっぽうを言うとその子に否定されたりする。「ダメ」を言わないのが母にはストレスになっている、ともおっしゃいました。

癩癩がこの頃増えたと母は疲れたようにおっしゃるので、お母さんが自分を受容しようとしていることがこの子には分かって「もっともっと受け止めて」という思いが募って来ている証拠です。普通の言葉で言うと甘えですが、母を頼りにしている気持ちの表れですから、引き続き“凶星を言う”を頑張ると癩癩はだんだん減るはずだと励ましました。

## 3 歳 9 ヶ月齢時の様子

癩癩は減って、起しても立ち直り切り替えが速くなった、聞き分けが良くなった、べたべた甘えてくるようになった、「怒られて悲しい」「怒られて苦しい」とか言うようになった、この子が私に気を使っているのが分かる、と。

プレ幼稚園での集団生活では皆と仲良くして先生先生の指示も守れて問題はないとのことでした。

## 3 歳 10 ヶ月齢時

プレ幼稚園には仲良しが一人居て「優しくしてくれるんだ」と母に言って来たとの事。大分落ち着いて、しつこいのは無くなった。うるさいこともあるが、うるささの感じ方は自分の体調によるのが分かって来たので、自分の体調が悪い時は放っておいて、良い時に関わるようにしたら落ち着いたと母が述べたので、筆者は「お母さんはこの子を尊重してこの子に合わせられるようになったということですから、お母さんは褒められますね」と言うと母は「そうですね」とつぶやいてほほ笑んだ。

母親の体調について質問すると、「二人目を生んだ後、何もしたくなくなり外出もできなくなってうつ病と言われたんです。その後は生理前の 1 週間は眠れなくなって、苛々して攻撃的になって、この子にしつこくされると怒鳴ったりしてましたが、生理が来ると落ち着くんです」と話してくれました。

ここで初めて母親が月経前症候群であり、母親の方に精神的な問題があるため、子どもに自閉症を疑わせるような症状が出ている点が明らかに成りました。

## 4 歳 0 ヶ月齢時

幼稚園に入園して1ヵ月経つが、先生には優しい子と言われていて、困ったことは何もないです。仲良しの事や幼稚園での出来事や経験をいろいろと話してくれます。自分がこの子に苛々するのは無くなってます。この子は日中は幼稚園なので目に付くのが減って、その分カーッと成らなくなったからでしょう。この子も幼稚園で発散しているんでしょう。もうこの子を自閉症とは思いません、と母は述べました。

児はバスごっこが大好きで2歳3ヵ月の弟に役付けしながら交代で運転手に成ったりお客さんに成ったりして遊んでいるとのこと、母親からの話も含めて児の発達は健康と判断されました。

診察室で児がレゴブロックを長く繋げているのを認めた筆者が「何作ってるの？」と問うと児は「自動車」と答え、筆者が「長いね、バス？」と言うと「違うよ、列車くるま」とイマジネーション溢れる比喻表現で答えてくれました。

母親に長男への心配は初診時を10とすると今は幾つですか？と尋ねると、2と答えてくれました。また、母は「今はマイペースな子だけど自閉症とは思っていません」とのことでしたので、筆者もその考えを支持して通院治療はもう必要ないことをお知らせしました。

#### 月経前症候群とは

月経前症候群では月経前3~10日の黄体期の中に精神症状あるいは身体症状が出現し、月経発来と共に減退ないし消失します。

精神症状は、強い抑うつ感、直ぐ怒ってしまう、苛々感、情緒不安定、集中困難、睡眠障害などです。

#### まとめ

月経前症候群という疾病のために苛々、抑うつ、怒りっぽいなどの精神的心理的症状を呈していた母親が、子どもに対して否定を先行した関わりをしばしばしていたために、子どもに自閉症的振る舞いをさせてしまった事が判明した親子について記しました。

自閉症は生れつきの障害と言う言い方もありますが、本稿で述べたように心理的原因で自閉症の様な行動を取る子もいるのです。

母親が子どもに強引に言う事を聞かせようとしたり、直ぐに怒ってしまったり、直ぐに「ダメ」を言う形での子育てを児童精神医学の領域では“過干渉”と言います。

過干渉は子どもの伸び伸びとした健康な心の育ちを阻害してしまうのです。児童虐待は最もひどい過干渉なのです。虐待されてる子には様々な精神的問題が生じる事は良く知られています。

本稿に述べた親子の場合、母親が筆者の説明に耳を傾けて自らの過干渉に気付く事ができた結果、母親はダメ出し先行の子育てをしないように頑張りました。母親の努力が、子ども自身が自分を守るためにしていた自閉症のような行動を子どもがしなくて済むように導いた、という訳でした。

#### 引用文献

- 1) 石川 丹：子育て親育ち読本～子どもの好ましい行動を育てるための親力アップを目指して“好い事作り療法”からのお薦め～. 札幌：楡の会発達研究センター出版部, 2013.

#### 付記

個人情報については文章の主旨が損なわれない程度で変改されています。